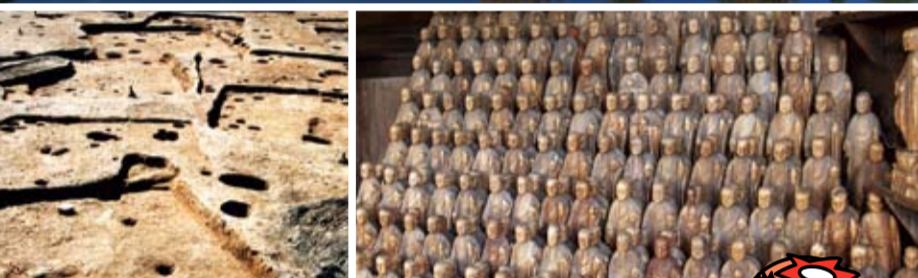


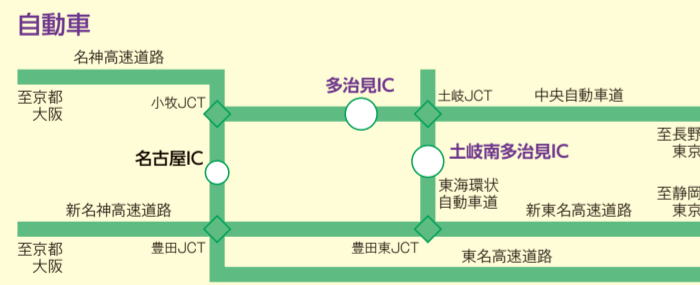
# 多治見市文化財マップ



多治見市教育委員会



## 多治見市へのアクセス



東京・静岡方面 ▶ 豊田東JCT ▶ 土岐南多治見IC (東海環状自動車道)  
 東京・長野方面 ▶ 多治見IC (中央自動車道)  
 大阪・京都方面 ▶ 小牧JCT ▶ 多治見IC (中央自動車道)

## 公共交通機関



## 文化財めぐりのエチケット

- 文化財は私たちの祖先が作り上げてきた貴重な歴史的遺産であり、国民共有の財産です。大切に保存・活用するため、文化財を見学するときには次のことを心がけましょう。
- 1. 催観の対象には敬虔な態度で接しましょう。
- 2. 火災予防に注意し、文化財のある場所ではタバコや花火、たき火などを絶対に行わないでください。
- 3. 拝観の許可が必要な文化財はあらかじめ所有者の許可を得てください。
- 4. 写真撮影は所有者の許可を得て行うようにしましょう。
- 5. 文化財に対し破壊や汚染の心配のある行為は厳に慎みましよう。

## お問い合わせ先

多治見市教育委員会 文化財保護センター  
 〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26  
 TEL.0572-25-8633 FAX.0572-24-5033  
 URL https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/  
 E-mail hogo-cen@city.tajimi.lg.jp

マップの作成には岐阜県漬物の国ふか推進補助金を受けています。

## 虎渓山・共栄エリア

### 1 永保寺

鎌倉時代末期創建の臨済宗南禅寺派の古刹で、正和2年(1313)に甲斐からの旅の途中に立ち寄った夢窓国師と仏徳禪師らが、閑静で美しい風景に魅せられ庵を結んだのが始まりといわれます。

**国宝 永保寺観音堂**  
 国指定文化財(国宝建築物)  
 ◆所有者:永保寺  
 水月場とも呼ばれ本殿にあたる建物。岩窟式厨子には聖観世音菩薩坐像が納められています。正和3年(1314)に造られ、15世紀後半に再建されたと言われています。禅宗様と和様が折衷した特殊な建築で、楕皮葺屋根の美しい建物です。

### 国名勝 永保寺庭園

◆所有者:永保寺  
 中近世の日本庭園の発達に大きく貢献した作庭家でもある夢窓国師が手がけた庭園。周辺の自然の地形を巧みに利用した素晴らしい景観は、東海一の名園たるに恥ぢません。



### 国史 永保寺開山堂

◆所有者:永保寺  
 室町時代初期に建立され、瓦四半敷で花狭間の格子窓の昭堂と、夢窓・仏徳両師の像を安置した仏徳の墓とされる宝篋印塔を納めた祠堂、その2堂をつなぐ相の間から成る禅宗様の建築です。



### 永保寺のイチョウ

◆所有者:永保寺  
 永保寺開山の仏徳禪師(1332年没)お手植えの木として大切に保護されてきたイチョウです。この言い伝えが正しければ樹齢は約700年になります。

### 永保寺のその他の文化財

◆公開:3月15日の宝物公開で見ることができるともあります。  
 仏徳禪師筆遺偈(県)、仏徳禪師筆印可仏鑑(県)、仏徳禪師書跡「吹毛不曾用」(県)、涅槃像(県)、聖観世音菩薩坐像(県)、塑造僧形彫刻(伝夢窓国師坐像)(県)、夢窓国師書跡「春帰家」(県)、絹本着色十六善神像(市)など

### 永保寺陶製灯籠

◆所有者:永保寺  
 多治見の陶器商・加藤助三郎が日露戦争の戦勝記念として蔵納したもので、方丈の正面に建てられています。火袋と蓋には志野釉、その他には織部釉が施されています。

### 2 虎溪山一号古墳

◆所有者:永保寺  
 二段築成の円墳で、直刀・金銅装の馬具・装身具の玉類・土師器・須恵器など多数の副葬品が出土しました。6世紀前半～末期の当時の多治見の支配者の墳墓と考えられます。

### 4 陶人舎窯

◆所有者:個人  
 連房式登窯は江戸時代初期から美濃で登場します。全長11.1m、狭口の横幅は4.2mで、円柱状のツクと欄板を組み合わせた窯詰をしました。昭和21～36年採築。

### 6 虎溪山自然林

◆所有者:永保寺  
 ◆公開:道沿いから見学可  
 急斜面の岩場で、70余種の木や草が生い茂っています。多治見市の自然植生を知る上で貴重な場所です。

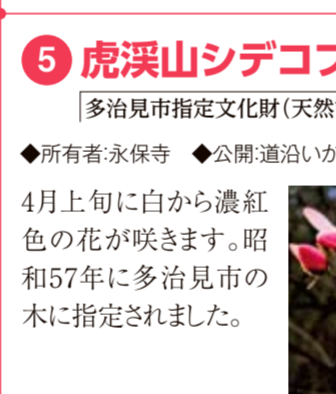


### 3 美濃窯伝統的窯業生産技術(水月窯)

◆技術保持者:水月窯 ◆公開:見学希望は要連絡  
 人間国宝荒川豊蔵が美濃の伝統を活かした一般家庭向け製品を作りたいと昭和21年(1946)に開窯。土作り、成形、焼成、上絵付焼成の工程を全て手作業で行う製造方法を守り続けています。

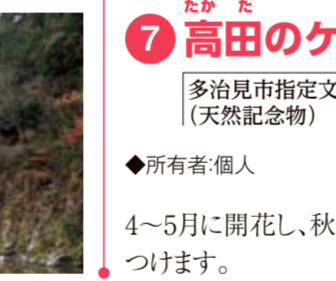
### 5 虎溪山シデコブシ群生地

◆所有者:永保寺 ◆公開:道沿いから見学可  
 4月上旬に白から濃紅色の花が咲きます。昭和57年に多治見市の木に指定されました。



### 7 高田のケヤキ

◆所有者:個人  
 4～5月に開花し、秋には直径5mm程の実をつけます。



## 池田・喜多町エリア

### 1 永泉寺

◆所有者:永泉寺  
 ◆公開:道沿いから見学可  
 奈良時代の高僧行基によって開かれた可児道場(池田五山)の一つ、蓮華院が江戸時代の初めに再興され、曹洞宗の寺として改めたのが永泉寺の始まりと伝えられています。

### 2 池田1号古墳

◆所有者:多治見市  
 直径約14mの円墳。6世紀末頃に作られた後、7世紀前半頃に作り直された跡が見られる珍しい古墳です。須恵器や金メッキを施した耳環など多数の副葬品が出土しています。

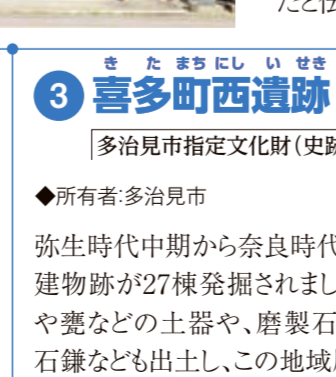


### 永泉寺のイチョウ

◆所有者:永泉寺  
 永泉寺境内の中央に根を張るイチョウの大樹です。江戸時代前期の寛文年間(1661～1673)に永泉寺開山の雲山大和尚によってお手植えされたといわれています。

### 3 喜多町西遺跡

◆所有者:多治見市  
 弥生時代中期から奈良時代にかけての建物跡が27棟発掘されました。また、壺や甕などの土器や、磨製石包丁、磨製石鎌なども出土し、この地域屈指の集落遺跡といえます。



## 多治見駅周辺エリア

### 1 新羅神社社殿 附陶製灯籠・棟札

◆所有者:新羅神社 ◆公開:瑞垣の外から見学可能  
 嘉永元年(1848)に建立された権現造の社殿には、尾張藩御用彫物師早瀬長兵衛一族による彫刻が施されています。拝殿前の陶製灯籠 一对は安政5年(1858)奉納で市内でも年代が古く貴重です。

### 5 西浦庭園

◆所有者:多治見市  
 幕末～明治に美濃焼の発展に貢献した西浦園治の庭園。明治13年(1880)天皇巡幸の際には庭園内に建てられた離れ座敷が行在所となりました。離れ座敷は大正時代初めて京都嵯峨の宝篋院へ移築されました。

### 7 平野のケヤキ

◆所有者:個人  
 4～5月に開花し、秋には直径5mm程の実をつけます。

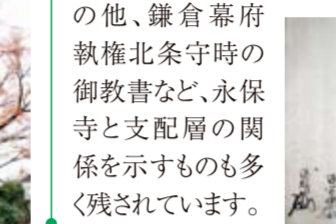
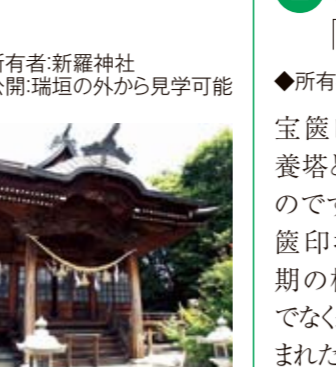


### 2 本土神社宝篋印塔

◆所有者:本土神社  
 宝篋印塔は墓碑や供養塔として建てられたものです。本土神社の宝篋印塔は室町時代初期の様式で、塔身だけでなく基礎にも梵字が刻まれた珍しいものです。

### 6 多治見市図書館郷土資料室

◆所有者:永保寺 ◆公開:図書館郷土資料室で複製または写真データが閲覧可能  
 多治見市指定文化財(古文書)  
 ◆所有者:永保寺 ◆公開:図書館郷土資料室で複製または写真データが閲覧可能  
 永保寺に代々引き継がれた鎌倉～江戸時代までの古文書。後醍醐天皇、光明天皇の論旨の他、鎌倉幕府執権北条守時の御教書など、永保寺と支配層の関係を示すものも多く残されています。

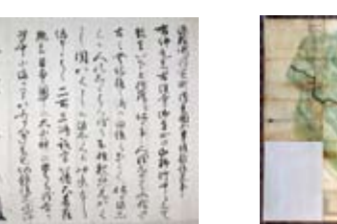
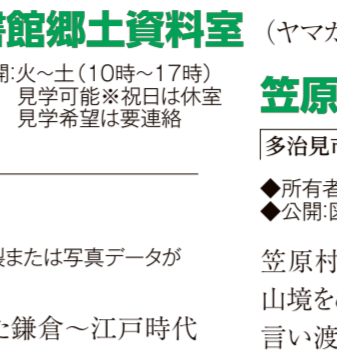
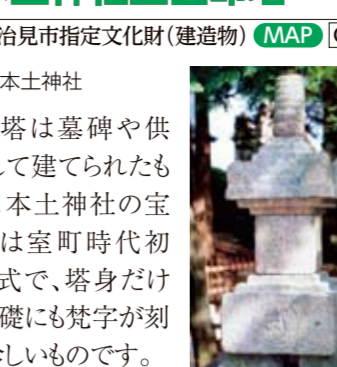


### 3 大日如来坐像(長福寺)

◆所有者:長福寺 ◆公開:見学希望は要連絡  
 長福寺は真言宗の寺院で元弘年間(1331～1334)の創建とされます。大日如来は密教の中でも最高位で、金剛界大日如来のこの像は「智拳印」という印相を胸前で結んでいます。室町時代の作と推定されます。

### 4 多治見国長邸跡

◆所有者:多治見市  
 ◆公開:図書館郷土資料室で複製または写真データが閲覧可能  
 美濃守護土岐頼貞の一族であった多治見国長の肖像画。幕末の画家浮田一憲により描かれたものです。

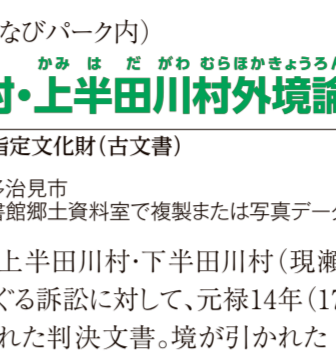
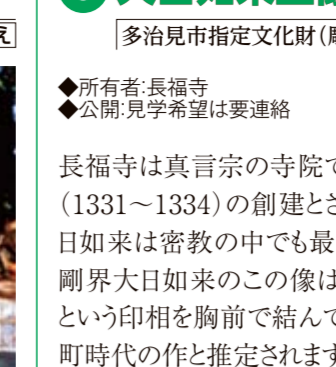


### 2 紙本着色涅槃図(清昌寺)

◆所有者:清昌寺 ◆公開:涅槃像の時に公開  
 清昌寺の涅槃図は、製作年代や作者に関して不詳ですが、弘化2年(1845)に表具を変えており江戸時代中期の作とされています。釈迦が右手を面前に添える姿で横臥しているのが特徴です。

### 4 狐塚古墳

◆所有者:多治見市  
 7世紀前半に築造されたと考えられる直径約11mの円墳で、墳丘と石室が完全な状態で残る市内では唯一の古墳です。双龍文環頭柄頭や金環、勾玉、須恵器などが出土しました。

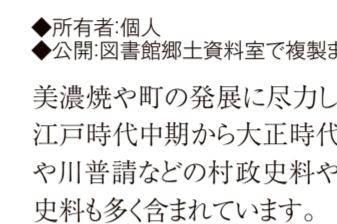
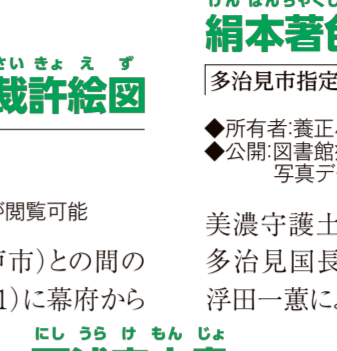


### 3 心性寺阿彌陀千体仏

◆所有者:心性寺 ◆公開:見学希望は要連絡  
 亡き2代妻木城主頼興と万民の極楽往生を願って、寛文6年(1666)に心性寺の中興の祖・閑唱真願が作ったと伝えられています。中央に阿彌陀如来1軀、12～20cmの仏像970軀が整然と並んでいます。

### 5 妙土窯跡

◆所有者:多治見市  
 16世紀前半に操業した半地上式単室の大窯で、残りが良く作業場跡もあり大窯の構造を伝える数少ない窯跡です。出土遺物は碗、皿、鉄軸四耳壺、すり鉢、香炉など多岐にわたっています。



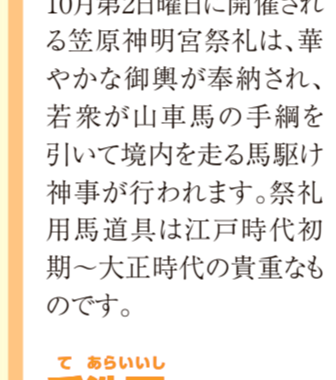
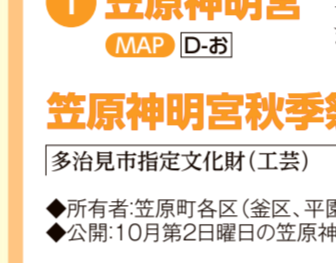
## 笠原エリア

### 1 笠原神明宮

◆所有者:笠原神明宮 ◆公開:拝殿より見学可能  
 笠原神明宮の祭神は天照大神です。年代の詳細は不明ですが、14世紀中頃の創建と言われています。

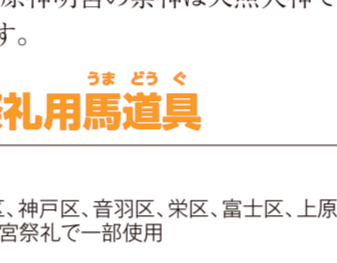
### 2 手洗い石

◆所有者:笠原神明宮  
 寛延2年(1749)に奉納され、正面に奉納年の十二支で縁起物の蛇と、笠原から伊勢神宮へ御饗米を送っていた関わりから16弁の菊花紋が彫られています。和泉国の石工によって彫られました。



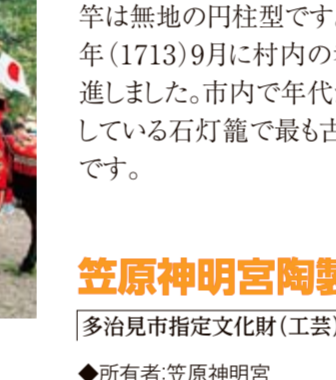
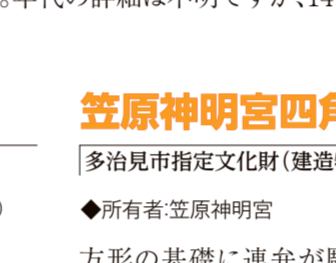
### 笠原神明宮秋季祭礼用馬道具

◆所有者:笠原神明宮 ◆公開:10月第2日曜日の笠原神明宮祭礼で一部使用  
 10月2日曜日に開催される笠原神明宮祭礼は、華やかな御輿が奉納され、若衆が山車馬の手綱を引いて境内を走る馬駆け神事が行われます。祭礼用馬道具は江戸時代初期～大正時代の貴重なものです。



### 笠原神明宮四角型丸竿灯籠

◆所有者:笠原神明宮 ◆公開:拝殿より見学可能  
 方形の基礎に連弁が彫られ、竿は無地の円柱型です。正徳3年(1713)9月に村内の者が寄進しました。市内で年代が判明している石灯籠で最も古いものです。



### 3 狐塚古墳

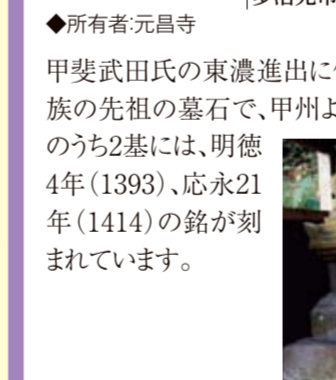
◆所有者:多治見市  
 7世紀前半に築造されたと考えられる直径約11mの円墳で、墳丘と石室が完全な状態で残る市内では唯一の古墳です。双龍文環頭柄頭や金環、勾玉、須恵器などが出土しました。



## その他

### 1 根本宝篋印塔

◆所有者:元昌寺  
 甲斐武田氏の東遷進出に伴い根本に由来した若尾一族の先祖の墓石で、甲州より移したと伝えられます。3基のうち2基には、明徳4年(1393)、応永21年(1414)の銘が刻まれています。



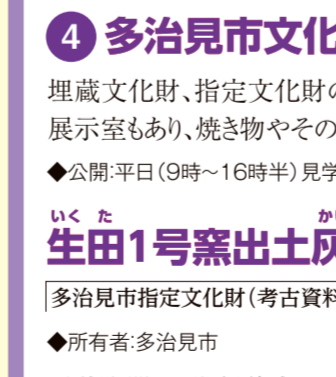
### 2 普賢寺

◆所有者:普賢寺  
 寛文12年(1672)創建の曹洞宗の寺で、江戸時代の地域を治めていた旗本林氏の菩提寺です。鐘樓門は東濃の名工野村作十郎によるもので、弘化3年(1846)再建の棟札が残されています。



### 4 多治見市文化財保護センター

◆公開:平日(9時～16時半)見学可能 ※時期によりどちらか1点を展示  
 埋蔵文化財、指定文化財の保護活動を行なっています。施設内には展示室もあり、焼き物やその他の歴史資料を見ることが出来ます。



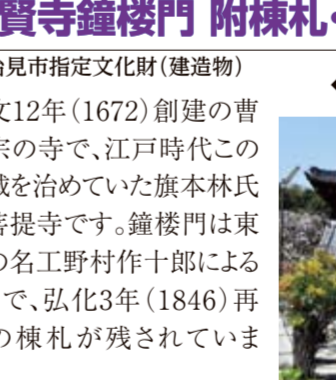
### 5 多治見市美濃焼ミュージアム

◆所有者:多治見市 ◆公開:裏面参照  
 この朱印状は、織田信長が焼物の窯を公認した書状で、瀬戸の陶工加藤市左衛門に与えられました。子孫の加藤景景がこの朱印状を持って多治見に移り住み、多治見の陶祖となったと由来状には記されています。



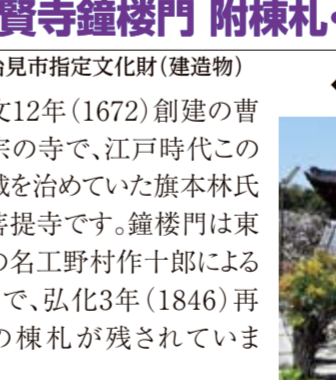
### 6 滝呂神明社磁器狛犬

◆所有者:神明神社(滝呂町) ◆公開:本殿周囲の瑞垣の外から見学可能  
 美濃では19世紀半ばから磁器生産が急増し、滝呂でも盛んでした。天保14年(1843)と弘化4年(1847)に製作されたこの狛犬は磁土を素材としており、陶器製が大半の中、例が少なく貴重です。



### 7 廿原のケヤキ

◆所有者:個人  
 日当たりの良い小高い場所の一隅に生える、県下ではまれなケヤキの大樹です。



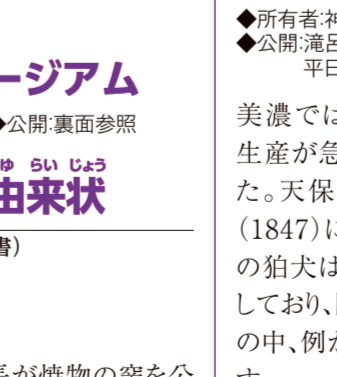
### 3 明和1号古窯跡

◆所有者:多治見市  
 鎌倉時代後期に操業した全長8.8m、最大幅2.2mの管窯です。この窯では無釉の山茶碗が焼かれ、碗、皿、壺、鉢、陶瓦や窯道具など数万点が出土しました。



### 8 小木棒の手(無二流) (諏訪神社)

◆所有者:神明神社(大蔵町) ◆公開:本殿周囲の瑞垣の外から見学可能  
 慶応2年(1866)に建立された木造檜皮葺、一間社流造の建物です。東濃の名工野村作十郎によるものです。



### 9 廿原のカキ

◆所有者:個人  
 樹齢がおよそ160年といわれる貴重な古木です。4月上旬には見事な花を咲かせます。



### 10 大蔵のシダレザクラ(神明神社)

◆所有者:神明神社(大蔵町)  
 樹齢がおよそ160年といわれる貴重な古木です。4月上旬には見事な花を咲かせます。

